

●レポートの作成マニュアル●(留学生、1年生向け)

(当時：国際交流センターT A) 金澤宏明
修正 2011年5月22日 (初版 2004/6/24)

- ▼ 前期末試験期間が近づき、レポートを作成する機会も増えていると思います。今までレポート作成のレクチャーを受けたことのない人のため、簡単なレポート作成のポイントをまとめたプリントをつくりました。
- ▼ レポートは講義の理解度や応用力を試すなど、受講生の実力をはかるために行われるものです。皆さんの中にはこの先、卒論や研究論文を書く人もいるでしょう。レポートはその最初のステップにもなります。基本的なことを押さえ、正しいレポートを提出しましょう。
- ▼ レポートに必要なことは、1) 正しいことを、2) 論理や議論を明確にして、3) 的確に、4) 報告することです。正しいことを報告するためには「課題に沿った」データや知識を集めなければなりません。次に集めたデータや知識を論理的に明確に構成します(議論を作ります)。その時、データが正しくても論理(考え方の道筋)が誤っていたり、論理が正しくても用いるデータや知識が間違っていたりすると、質の良いレポートは出来ません。適正にデータを集め、それらを的確に結びつけながらレポートを構成する必要があります。集めた情報を「正確に秩序づけて」自分の考え方(解釈)を示して報告するのがレポートです。
- ▼ レポートの文章は、小説や物語ではありませんから、余計な修飾語や比喩は必要ありません。簡潔な文で、明確に表現してください。過剰なレトリック(修飾的表現)は必要ありません。
- ▼ 文章の流れや構成法はいろいろな方法がありますが、基本的には、**【序論→本論→結論】**という構成になります。本論が二つや三つパラグラフで構成される場合もあるでしょう。

- ・ 序論であたなの書くレポートが何を説明するものなのか、何を論証するのか説明することが必要です。また以前に似たような研究があれば、過去の研究の流れを説明するのも良いでしょう。
 - ・ 本論では序論に説明したことが正しいことを説明します。また自分の議論に対する「可能性のある反論」を紹介し、それに対する反駁を書くことも議論の仕方の一つです。
 - ・ 結論は、序論と本論により自分の説明が正しいことを述べたり、このレポートでは論証できなかった問題点や、報告の発展の可能性を示唆したりすると良いでしょう。また、自分の考えを明確に示すことも重要です。
- ▼ また、レポートは単なる報告ではありません。自分の考え方、解釈を示すことも必要です。はじめに「こう考えることができるのではないか?」という**仮説**を立て、それに従って調査する必要があります。例えば、序論で仮説を示し、本論でそれが実際はどうかを論じ、結論で調査の結果どうということが分かったのか(仮説が間違っていた、仮説には正しい部分も間違っている部分もあったなど)を示した上で、自分の考え方を本論に沿って述べるのが良いでしょう。

- ▼ レポートを書く場合、必ず読んだ専門書や、データの引用先などを示す必要があります。今説明していることが過去のどのような研究や調査から引用し、正しいと論証できるのか示さなければなりません。これを**スタイル**といいます。
- ▼ このような場合、二つの手段があります。本文中に注釈マークを入れ、注釈を欄外や文末に入れる方法です。二つめはまとめて文末に使用した文献リストを入れる方法です。これは指導教員によって求めるものが異なりますので、各自教員にスタイルを聞くといいでしょう。可能であれば、両方をした方が良いでしょう。注釈を入れる方法は Word などのワープロソフトであれば簡単にできます。手書きの場合は困難であれば、文末脚注にしてもいいでしょう。

●例1：文中での注釈挿入

[※レポート本文に、逐一注釈番号を入れ、同じページの下か、最後のページに番号順にリストをいれる方法です。文学、歴史学をはじめ多くの分野で使われている方法です。]

【本文】

モーガンに関する先行研究は、彼の対ハワイ政策決定過程への関与を扱っているものの、彼の膨張論を実証的に研究していない⁽¹⁾。またハワイ併合問題は 20 世紀転換期の合衆国海外膨張及び外交研究において極東への飛び石としての重要性は指摘されながら、日本人移民脅威論や本研究で扱う人種統治政策、またアメリカ市民権の非白人への付与などハワイ独自の問題についての研究は少ない⁽²⁾。このような外交研究史上の欠落部分を補うため、本稿ではアメリカの海外膨張研究におけるハワイ併合政策決定過程をモーガンの膨張論と人種統治政策の側面を中心に、その重要性を再検討するものである⁽³⁾。

(1) ハワイ史の研究としては、Ralph S Kuykendall, *The Hawaiian Kingdom* Vol.1-3 (Honolulu: University of Hawaii Press, 1938-67); 中嶋弓子『ハワイ・さまよえる楽園』(東京書籍、1993 年); H・E・グレゴリー(國友忠夫訳)『ハワイ史』(三省堂、1943 年)等を参照。

(2) ハワイ併合を極東への飛び石として記述した研究として、Julius W. Pratt, *Expansionists of 1898: The Acquisition of Hawaii and Spanish Islands* (Baltimore: Johns Hopkins Press, 1936); Walter LaFeber, *The American Search for Opportunity, 1865-1913* (New York: Cambridge University Press, 1993)など。

(3) 外交に関連したモーガン研究としては、Joseph A. Fry, *John Tyler Morgan and the Search for Southern Autonomy* (Knoxville: University of Tennessee Press, 1992); August Carl Radke Jr., *John Tyler Morgan, An Expansionist Senator, 1877-1907* (Ph.D. Dissertation, University of Washington, 1953)など。いずれもハワイ併合問題に関する言及はあるが、統治政策に関連した実証研究はされていない。

【説明】

上記の例は学術論文の事例です。本文の段落や説明したい箇所のあとに数字を入れ、そのページの欄外(下段)や文末に、そこで使用した研究書やデータの引用先を示すための文章や文献リストを入れます。本文の内容をさらに詳しく説明する文章が入る場合もあるでしょう。

●例2：レポート末の文献リスト揭示

[※数頁書いたレポート本文の最後にリストをまとめていれます。社会学などに多い方法です。本文中には注釈をいれずに、著者名と発行年だけ示すことがあります。詳細は省きます。]

【本文】

〜〜は〜〜である。このように、この報告書は〇〇について検討し、▼▼が正しいことを明らかにした。以上のように◆◆の問題について私は■■であったと結論づける。

文献リスト

・一次文献（資料・データ）

- 1) United States. Congress. Senate. Committee on Pacific Islands and Puerto Rico, *Hawaiian Investigation. Report of Subcommittee on Pacific Islands and Porto Rico on General Conditions in Hawaii* (Washington D.C.: GPO, 1902-03), Part1-3.
- 2) United States. Congress. Senate. Committee on Foreign Relations, *Annexation of Hawaii, March 16, 1898* Report No.681 (Washington D.C.: GPO, 1898).

・二次文献（研究書）

- 1) Fry, Joseph A., *John Tyler Morgan and the Search for Southern Autonomy* (Knoxville: University of Tennessee Press, 1992).
- 2) William Appleman Williams, *The Tragedy of American Diplomacy* (Cleveland: World Publish Co., 1959).
- 3) 外務省、欧米局『太平洋問題参考資料 布哇併合ノ顛末』(1921年)。
- 4) 小平直行「砂糖とアメリカ帝国主義の成立」『熊本大学教養部紀要 人文・社会科学編』第28号(1993年)、75-95頁。
- 5) 清水知久『アメリカ帝国』(亜紀書房、1968年)。
- 6) 高橋章『アメリカ帝国主義成立史の研究』(名古屋大学出版会、1998年)。

【解説】

文末に使用した資料や研究書などのリストを入れます。公の報告書やデータ、研究対象に由来する文献などは一次文献（一次資料）などといいます。これに対し、その対象を研究した専門書などは二次文献と呼ばれます。

- 最後に文献リストの書き方（スタイル）を説明します。今後専門分野研究を進めていくとその分野独自のリストの書き方を覚えなければなりません。1年生のレポートの場合、特に指示のない場合、上記の例を参照して、以下のように書くと良いでしょう。

【和文の文献リスト】

例2の5)～8)を見てください。著者名、『』の中に文献のタイトル、()の中に出版社名、出版年を入れてください。論文の場合は論文名に「」をつけ、そのあとに『』つきで掲載している雑誌名をいれましょう。そのあとに雑誌の号数を入れます。洋文と同じように、必要であれば()のあとにページ数をいれてください。論文の場合は必ずページ数をいれるようにしましょう。基本的に全角文字です。

著者名『著書名』(出版社、出版年)、必要であればページ数など

例1：清水知久『アメリカ帝国』（亜紀書房、1968年）。

例2：高橋章『アメリカ帝国主義成立史の研究』（名古屋大学出版会、1998年）。

論文や雑誌は例2の二次文献の6)を参考にしてください。

著者名「記事名」『著書名』あれば(出版社、出版年)、ページ数

例1：小平直行「砂糖とアメリカ帝国主義の成立」『熊本大学教養部紀要 人文・社会科学編』第28号(1993年)、75-95頁。

【欧米文の文献リスト】

例2の1)～4)までを見てください。英文の場合、リストは、著者名 [or 機関名]、文献のタイトル、()の中に本の出版地：出版社、出版年の順番、そして必要であれば()のあとにページ数というスタイルで書きます。

著者名は、3)のようにファーストネームを先にかいて Fry, Joseph A と書く場合と、4)のようにそのままの名称で書く場合があります。3)が4)の書き方になると、Joseph A Fry となります。それぞれの授業の先生の指示に従ってください。

文献のタイトル(著書名、雑誌名)はワープロないしパソコンで作る場合はイタリックの斜体にしてください。手書きの場合は、下線を引いてわかりやすいようにしてください。論文の場合は論文タイトルに””をつけ、掲載雑誌名をイタリックの斜体にしてください。イタリックが使えない場合や、手書きの場合はアンダーラインを引いてください。基本的に半角文字です。

著者名, “記事名,” 著書名, (出版地: 出版社, 出版年), ページ数など.

例: Joseph A Fry, *John Tyler Morgan and the Search for Southern Autonomy* (Knoxville: University of Tennessee Press, 1992).

インターネットサイトの引用方法

● インターネットの引用

例えば、担当講師の、明治大学アメリカ史のクラスを参照する場合は、

金澤宏明「明治大学アメリカ史」『アメリカ史関連サイトリンク』（更新日 2011 年 2 月 8 日）<http://ushistory.direct.ne.jp/class/2010/class2010meiji.html> <最終アクセス日 2011 年 5 月 20 日>

のように記入すること。タブやフレームを利用しているサイトの場合は、その引用先のアドレスを必ず記入すること（手書きでも大変だからといって略すことはできません）。

【注意】

最近のインターネットサイトでは、フレームを使用して、引用元のURLリンクが正確に分かりにくくなっている場合があります。例えば、上記の金澤のサイトの場合、大元のサイトのURLアドレス、<http://ushistory.direct.ne.jp/>を書いただけでは不正確です。必ず、リンク先を記入して下さい。

（Windows OS の PC の場合は、右クリックからショートカットのコピーを選択するなどして、正確なアドレスを入手してください。）

例。ウィキペディアで、リンカーンのページを引用した場合。

<※私の講義では、ウィキペディアはできるだけ引用しないで下さい>

不明「エイブラハム・リンカーン」『ウィキペディア日本語』
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%82%A4%E3%83%96%E3%83%A9%E3%83%8F%E3%83%A0%E3%83%BB%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%82%AB%E3%83%BC%E3%83%B3> <最終アクセス日 2011 年 5 月 20 日>

※もし、『ウィキペディア日本語』や「リンカーン」『Wikipedia』とだけ引用元を書いた場合、不正確であり、間違いと見なされます。

● インターネットの引用の際の注意点

近年ではインターネット上の一次資料や有益な論考が掲載されている場合があります。しかし、往々にして、ミスなどがある場合もあります。例えば、古い時代の資料の翻訳のサイトでは、元資料からのコピーミスや、WEBサイト作成者の知識不足による誤解などです。

インターネットサイトを利用する場合は必ず、批判的にそのサイトを引用することが正しいかどうかを判断することが必要になります。例えば、経済学で有名な研究者が、文学について述べていても、彼が文学の専門家でない限り、その発言を信用して良いかどうかは、慎重に判断する必要があります。もし、まったく知識のない人が思い込みで書いた文章をそのまま引用してしまったら、引用者にはその正誤を判断する能力がないと思われても仕方ありません。

必ず、利用して良いサイトかどうかの判断をしてください。できるだけ著者が誰なのかを、調べてから、引用するようにしましょう。

- 以上、シンプルなレポートの書き方のルールを説明しました。頑張って良いレポートを書きましょう。